3.　遠山郷スタディ・ツアー

朝岡　幸彦

（1）学輪 IIDA 共通カリキュラムと遠山郷

飯田市上村地区・南信濃地区（いわゆる遠山郷）における ESD の実践として、高校生と大学生とが合宿型のフィールドスタディを通してともに学ぶ取り組みを「遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ」と呼んでいる。

この実践は、学輪 IIDA（がくりんいいだ）という飯田市が主催する大学間ネットワークの事業として取り組まれている（http://gakurin-iida.jpn.org）。私立短期大学１校のみが立地する飯田市にとって、高校を卒業する若者たちのほとんど（8 割）が市外に進学・就職して故郷に戻らない（4 割しか帰ってこない）という構造は、どうしても乗り越えなければならない課題であった。もともとユニークなまちづくりを進めていたこの市（まち）には、多くの大学の研究者や学生が教育・研究の場として訪問していたことを逆手に取り、その窓口となる「大学連携係」を設置するとともに、52 大学 113 名（2019 年度）の研究者を組織する大学間ネットワークを組織した（朝岡・澤田「大学－自治体間連携の現状と可能性－ 学輪 IIDA を事例として－」、学輪 IIDA 機関誌『学輪』第 3 号、2016 年）。全国の大学や研究者との連携組織をつくることで、積極的に研究者や大学生を誘致するとともに、自治体施策や産業振興のシンクタンク機能を強化することが期待されている。だが、もっとも期待されているのは、市外に流出する高卒者の還流であり、進学・就職等で市外に転出する若者が全国の大学の研究者や大学生が訪問する動きや研究成果に刺激されて、再び市（まち）に戻ることであると見ることができる。

ある意味で、その鍵を握る事業が高大連携事業であろう。学輪 IIDA には年 1 回の全体会の他に、二つのプロジェクト会議が作られている。そのうちの一つが「共通カリキュラム構築プロジェクト会議」であり、飯田の価値を集約し、共有化した「モデルカリキュラム」を毎年策定し、フィールドスタディを通じて実践し、会議で検証を積み重ねてきた。もともとこの市（まち）を訪問する大学生たちに向けた共通カリキュラム（「南信州・飯田フィールドスタディ（3 泊 4 日の大学生向け学習プログラム）」を基礎に）を構築することで、地域の人材や資源とうまくマッチングする方法を模索してきた。こうした取り組みの中から、高校生と大学生とがともに学ぶ高大連携事業が提案され実施されるようになった。2019 年度は「ソーシャルキャピタルフィールドスタディ」（5 大学 30 名、5 高校 22 名）とともに、「遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ（遠山郷 EG-FS）」（2 大学 11 名、3 高校 14 名）が高大連携事業として取り組まれた。

遠山郷 EG-FS は、かねてから飯田市上村地区・南信濃地区（遠山郷）で社会調査実習（授業）を実施してきた東京農工大学と地域との関係を基礎に、松本大学、京都外国語大学

（2018 年度）、立教大学（研究所）が飯田市内の高校教師とともに高校生・大学生向けの地域調査学習のプログラムを作成しようとしたことに始まる。

（2）遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディの特徴

遠山郷は日本最大の大断層である中央構造線の直上に位置するため、その特徴的な地形・地質が「南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク」に認定されているばかりでなく、3,000 メートル級の高い山脈と深い峡谷に育まれた豊かな自然が「南アルプスユネスコエコパーク」にも認定されている。このエコパークとジオパークという二つの貴重な自然遺産をもとに、そこに暮らす人びとの生活や歴史・文化の調査を通して、地元の高校生と大学生の「学習の場」として深い学びを実現しようとするものが、「遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ（遠山郷 EG-FS）」の実践である。

第 1 回遠山郷 EG-FS は、2018 年度に「遠山郷エコ・ジオパーク Field Study 2018」（2018 年 9 月 15 日～17 日）として取り組まれ、東京農工大学（大学院）、松本大学、京都外国語大学の 3 大学の教員 3 名、学生 11 名と、飯田 OIDE 長姫高校、飯田女子高校の教員 2 名、生徒 8 名に、飯田市企画課、環境政策課、上村地区・南信濃地区の 2 公民館の協力で実施された。このプログラムの特徴は、エコパーク・ジオパークに関する専門家や地元の猟師の講義を踏まえて、生徒・学生たちが「災害を辿る」「霜月まつり」「遠山の生業」「秋葉街道」の 4 つのグループに分かれてフィールドワーク（巡検）を行ない、ワークショップで作成したポスターを上村地区・南信濃地区の地元関係者の前で発表したことにある。

前年の成果と反省を踏まえて、市役所と大学、高校の教員が丁寧な準備とすり合わせと高校生・大学生による事前学習を行いながら、第 2 回遠山郷 EG-FS「遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ」（2019 年 9 月 14 日～16 日）が、東京農工大学、松本大学、立教大学 ESD 研究所の 3 大学の教員 3 名、学生 11 名と、飯田風越高校、飯田 OIDE 長姫高校、下伊那農業高校、飯田女子高校の 4 高校の教員 3 名、生徒 13 名に、飯田市企画課、環境政策課、上村地区・南信濃地区の 2 公民館の協力で実施された。

学輪IIDA共通カリキュラム実行委員会

遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ　日程表

	時間帯 開始	終了	分	テーマ	講　師	会場	備考
1日目 9月14日 土曜日	10:00	11:00	60	集合～遠山郷へ移動		飯田市役所	高校・農工大はマイクロ利用
	11:00	11:30	30	受付		南信濃公民館	松本大学は直接現地集合
	11:30	12:00	30	○ 自己紹介、趣旨説明、オリエンテーション		南信濃公民館	
	12:00	13:00	60	昼食		南信濃公民館	お弁当あり
	13:00	14:20	80	1　フィールドワーク　「和田の街」	ジオパークガイド　3名	南信濃（和田）	3グループに分かれて行動
	14:30	16:00	90	2 ①昨年度の様子・高校生事前学習の共有 ②遠山郷とエコパーク・ジオパーク	参加高校生・大学生代表 飯田市美術博物館客員研究員 坂本　正夫氏 松本大学総合経営学部 田開　寛太郎　専任講師	南信濃公民館	
	16:00	17:00	60	3　翌日のフィールドワークに向けての事前学習	松本大学総合経営学部 田開　寛太郎　専任講師	南信濃公民館	
	17:00	17:15	15	移動（島畑マイクロ）　＊宿泊場所：島畑			
	17:30	18:30	60	夕食			
	18:30	20:00	90	4　山の生活、猟師の仕事	地元猟師 桂山勝人さん 木股玄登さん	島畑	
	20:00	21:00	60	5　フィールドワーク事前準備	松本大学総合経営学部 田開　寛太郎　専任講師	島畑	＊終了後、お風呂は22時まで
2日目 9月15日 日曜日	8:45	9:00	15	※朝食は7：30～ 移動（島畑マイクロ）			
	9:00	10:00	60	6　ワークショップ ※前日の振り返り、フィールドワーク準備	キープ協会 増田　直広　先生	南信濃公民館	
				移動（グループ毎に車利用）			
	10:00	17:00	420	7　フィールドワーク ※昼食はテーマ毎にとる	グループ①観光 遠山郷観光協会 菅原慎一さん 太陽堂 水戸幸恵さん コンパスハウス 遠山典宏さん	遠山郷全体 （和田を中心に）	コンパスハウス遠山さんアテンド 10:00～11:00　観光協会で菅原さんのお話 南信濃公民館で弁当 13:00～14:00　太陽堂で水戸さんのお話 ＊17時までに島畑へ戻る
	10:00	17:00	420		グループ②和田 地元猟師 桂山勝人さん 木股玄登さん	和田	終日：猟師の仕事を感じる体験 鹿の解体 昼食カレー作り 猟師の山へ入る ＊17時までに島畑へ戻る
	10:00	17:00	420		グループ③下栗 下栗里の会 野牧武さん	下栗	10:15～12:45　運動会参加（お弁当昼食・聞き取り調査含む） 13:00～17:00　下栗へ移動・調査 ＊17時までに島畑へ戻る
	10:00	17:00	420		グループ④上町 上町活性化委員会 前島衛さん 山崎紀男さん	上町	10:00～12:00　上町調査 12:00～13:00　上村公民館で昼食 13:00～17:00　引き続き調査 ＊17時までに島畑へ戻る
	17:00	19:00	120	夕食・お風呂　＊宿泊場所：島畑			風呂を済ませてから夕食 ＊夕食18:00～
	19:00	22:30	210	8　ワークショップ ※発表会の準備		島畑	
3日目 9月16日 月曜日	8:45	9:00	30	※朝食は7：30～ 移動（島畑マイクロ）			
	9:00	11:30	150	9　ワークショップ ※振り返り、まとめ、発表 ※発表はポスター発表とする。 発表会10時30分～		南信濃公民館	
	11:30	12:00	30	10　総括・閉会		南信濃公民館	
	12:00	13:15	75	飯田市役所へ移動～解散			高校・農工大はマイクロ利用 ※松本大学は現地解散

このプログラムの特徴は、「前年度の様子・高校生事前学習の共有」を専門家の講義の前に置いたことであり、ワークショップを立教大学 ESD 研究所の客員研究員に依頼したことである。その上で、①観光、②和田、③下栗、④上町の 4 つのグループに分かれて「ツーリズム」に関わるフィールドスタディに取り組んだ。①観光グループは観光協会、地域おこし協力隊員が開設したゲストハウス、地元の若者たちが改築したシェアハウスの見学

と聞き取りを行い、②和田グループは地元猟師とともに山に入って、鹿の解体と調理を体験した。③下栗グループは飯田市内で重要な位置を占める地域行事である「地域運動会」に参加し、手伝うなかで聞き取りを行ない、④上町グループは地域活性化委員会の取り組みの聞き取り調査を行った。

この遠山郷 EG-FS を実施するにあたって、市役所と大学、高校による丁寧な議論と地元（遠山郷）の関係者との調整や準備が繰り返されたことは重要である。まだまだ工夫や改善の余地はあるものの、過疎化・高齢化する地域の中で地元の高校生と大学生たちが地域の財産を発掘し、記録しようとする実践が、地域づくりに果たす効果は少なくない。第 3 回遠山郷 EG-FS が、2020 年 9 月 19 日～21 日に再び実施される予定である。

(3) 高大連携事業の意義と可能性

高大連携による「遠山郷エコ・ジオパークフィールドスタディ」が果たした教育上の効果の一端を、プログラムに参加した高校生の感想に見ることができる。

高校生と大学生とが一緒にフィールドスタディに参加し、同じ班でワークショップやポスター作成をしたことが素直に共感と驚きとして表現されている。

「私たちとは全然違った感想や書き方で新しい発見があった。…お風呂に入っている間に考えてくれていた時や、質問を積極的にしてくれた時があった。私もこんな人たちになっていきたい」

「班の皆が全く知らない人だったけど、高校生も大学生も話かけてくれてうれしかったし、…大学生の人たちは考え方が私よりも一歩二歩先のことを考えていて、すごいなって思って勉強になりました」

「高校生の考えと違った大学生の考えは、『こういう考え方もあるのか』と思うものが多くあった。悩んでいるときにアドバイスをくれたりしたので、すごく頼りになった」

また、遠山郷という地域を歩き、地元の人たちと関わる中で高校生たちの意識の変化も見ることができる。

「本当に本当に楽しい 3 日間で、恵まれすぎていました。すでに余韻がすごいです。遠山への関心ももっともっと沸いたので、これからも遠山のことについて調べていくつもりです」

「スケジュールが忙しいなという印象だが、だからこそこれだけ内容の濃いフィールドスタディなんだと思った。とても楽しい 3 日間をすごせて幸せだった」

「水という 1 つの観点に集中することで水についての歴史や「現状を知ることができて面白いと思った。今回は大勢の友達と行ったのですごく面白くて、でも話を聞くところは真剣に聞けてメリハリもつけることができた」

ESD の主体は、市民である。ただし、その市民は「未来の市民」であることを求められている。持続可能な開発目標（SDGs）に象徴される地球レベルの課題は、いますぐに地域でも取り組まれなければならない課題であり、高校生や大学生に代表される若者こそが「未来の市民」として、ESD の主体として期待されていることは明らかである。学校教育としての中等教育（中学・高校）と高等教育の間には、大きな壁がある。その壁は、主に教科書と学習指導要領などに見られる決められた知識・技能の枠内で学ぶ教育と、学問・研究の自由を基礎にその枠を超えることを求められる教育との違いであろう。高校生たちは大学生とともに地域という教科書にはない「場」で学ぶことで、この壁を軽々と越えることができるのである。大学生にとっても、高校生とともに「未知の地」について学ぶことは、自らの学び方を問い返す良い機会となっていると思われる。これからも、ESD の主体としての高校生・大学生のフィールドスタディに大きな可能性を期待したい。

（あさおか・ゆきひこ　東京農工大学教授／立教大学 ESD 研究所客員研究員）